

# 第45回全国高校選抜ホッケー大会

## 優勝 横田高校男子ホッケー部 (4年ぶり5度目)

3月25日から30日まで岐阜県で開催された第45回全国高校選抜ホッケー大会で、横田高校男子ホッケー部が優勝しました。

決勝戦は福井県の丹生高校との対戦でしたが、悪天候のため試合は中止され、両校優勝という結果でした。

3月31日には、役場両庁舎で優勝報告会が行われ、多くの保護者や町民が駆けつけ選手の活躍を称えました。

落合晴輝主将から「同率優勝だったが嬉しい。インターハイでも良い報告ができるようお互いに厳しく高め合って頑張りたい」、また伊藤直登監督から「今年こそ日本一になる強い気持ちで練習に取り組んできた。両校優勝という結果だったが、決勝まで勝ち進んだことは選手の自信に繋がる良い経験となった。今回の結果に満足せず、



▲優勝した横田高校男子ホッケー部

インターハイでも優勝を目指したい」と喜びと今後の意気込みを述べました。

また、女子ホッケー部は優勝した今市高校(栃木)と2回戦で対戦し、惜しくも敗退しました。

## 「街道をゆく」再現ツアーで たたら操業を体験

司馬遼太郎が執筆した作品「街道をゆく・砂鉄のみち」を再現するツアーが三月十四日から十六日にかけて行われ、司馬遼太郎記念館の会の会員約七十人が奥出雲町を訪れました。

三月十五日に鳥上地区の日刀保たたらで行われたたたら操業体験では、参加者の中から選ばれた数名が窯壊しの作業を実際に行い、慣れない作業と炉が発する高熱に悪戦苦闘していました。



▲窯壊しを体験する参加者

出来上がった鉞を見て木原明村下から「無事玉鋼が生成された。二振りくらい短刀ができそうだ」と報告があると拍手が沸き起こりました。

## 法律問題をもっと身近に

### 弁護士講演会と 無料法律相談会



▲講演会の様子

大阪などで活躍する弁護士グループによる講演会と無料法律相談会が三月三十日、カルチャープラザ仁多で行われました。

講演会では、相続の基礎知識や遺言書の書き方、成年後見制度などの法律問題について、事例を交えてわかりやすく話されました。

また、講演会の後には無料の法律相談が行われ、十一人の弁護士が親身になって相談者の話を聞いていました。

訪れた約七十人の来場者にとって、法律を身近に感じることで、できるよい機会となりました。

## 「地域医療を考える集い」を開催

地域医療の現状や課題などに関心を持ってもらおうと「地域医療を考える集い」が三月二十九日、カルチャープラザ仁多で開催されました。

第一部は、福井県おおい町国保名田庄診療所長の中村伸一先生を講師に招き、「自宅で大往生」「ええ人生やった」と言われるために」と題した講演会が行われました。



▲語りかける中村先生

中村先生は、自治医科大学を卒業後、人口約三千人の福井県名田庄村(現・おおい町)で唯一の医療機関である名田庄診療所の所長に就任。それから二十年以上の間、幅広い領域に一人に対応し、地域医療を支えておられます。小さな診療所だからこそできる、患者とその家族に寄り添ったきめ細やかな診療や、「自宅で最期を迎えた

い」と望む患者と家族を支えるための様々な取り組みや体制作りが注目され、テレビ番組や書籍などで紹介されるなど全国的に活躍されています。

先生は、最期を看取った患者とその家族との心温まるエピソードを交えながら、保健・福祉・医療の連携、地域社会の絆や結束力の大切さなどを熱く語りました。

第二部では「みんなで作えよう、地域医療」をテーマにしたシンポジウムが行われ、雲南保健所長の福澤陽一郎先生を座長に、奥出雲病院の深澤郁雄院長、永生クリニックの藤原卓院長などから発表がありました。

会場に集った約二百人の参加者は先生方の話に熱心に耳を傾け、これからの地域医療の在り方などについて考えるよい機会となりました。

### 中村先生のお話から

「家という日常生活の場で息を引き取る」ということは、本人のためだけでなく、一緒に暮らす子どもや孫に命のリアリティを伝える大切な儀式。人は最期にこうなる、とみせることで、命とはどういふことかという

## より良い幼児教育を求めて

### 奥出雲町幼児教育推進協議会からの提言

教育委員会定例会が三月二十八日に行われ、奥出雲町幼児教育推進協議会の松浦昇委員長から「奥出雲町幼児教育推進に関する提言」が糸原直子教育委員長に提出されました。

奥出雲町幼児教育推進協議会は、町内の幼児園化に伴い、幼稚園・保育所の一元的な機能をもつ施設の設置を進めていくうえで、幼児教育の質の維持・向上を検討するための組織として平成二十二年に設置されました。

最後の教育をしてくれる。これが、僕が在宅にこたわる理由です。」



▲会場の様子

- ①奥出雲町すべての幼児のより良い育ちを望み、体制を整えること
- ②保育の質の向上を図るための研究体制を整備し、切磋琢磨する環境づくりをすること
- ③幼児をとりまく家庭・幼児教育施設・学校・地域などが、将来の育ちを見据えた連携をより深めていくこと



▲松浦委員長(左)が糸原委員長(右)へ提言書を提出